

28年3月分

製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年3月1日～ 28年3月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
入荷動向	国産材製材品	△ 7.1	7.1	△ 7.1
	外材製材品	△ 21.4	0.0	0.0
	その他	△ 20.0	10.0	0.0
販売動向	国産材製材品	△ 7.1	7.1	7.1
	外材製材品	0.0	14.3	7.1
	その他	10.0	20.0	10.0
在庫動向	国産材製材品	△ 14.3	14.3	0.0
	外材製材品	△ 7.1	0.0	△ 7.1
	その他	△ 20.0	10.0	0.0

・国産材製材品の入荷は3月の減少が、4月は増加、5月は再び減少。外材は3月の減少が、4月、5月は横ばいに。その他は3月の減少が、4月は増加、5月は横ばい。

・国産材製材品の販売は3月の減少が、4月、5月は増加。外材は3月の横ばいが、4月、5月は増加。その他は3ヵ月連続して増加。

・国産材製材品の在庫は3月の減少が、4月は増加、5月は横ばい。外材は3月の減少が、4月は横ばい、5月は減少。その他は3月の減少が、4月は増加、5月は横ばい。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		28/3月	4月	5月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 7.1	0.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 7.1	0.0	0.0
	通し柱 12×6	10.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	8.3	0.0	0.0
	タルキ	0.0	0.0	0.0
	間柱	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	0.0	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	7.1	7.1
	柱角 KD12×3	△ 7.1	7.1	7.1
	土台角 10.5×4	7.1	0.0	7.1
	土台角 12×4	△ 7.1	△ 7.1	△ 7.1
	通し柱 12×6	△ 8.3	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	0.0	△ 7.1	△ 7.1	
米マツ割物	0.0	△ 7.1	△ 7.1	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	8.3	8.3	8.3	

・スギ製材品の価格は、柱角が3月のやや弱含みから、4月、5月は横ばいに。通し柱及び母屋角は3月のやや強含みが、4月、5月は横ばいに。桁角、タルキ、加工板、ヌキ及び平割は3ヵ月連続して横ばい。間柱はやや弱含みで推移。

・ヒノキ製材品の価格は、柱角10.5cmが3月の横ばいから、4月、5月はやや強含み。柱角12cmは3月のやや弱含みが4月、5月はやや強含み。土台角10.5cmは横ばいしないしやや強含みで推移。土台角12cmはやや弱含みで推移。通し柱は3月の弱保合が4月、5月は横ばいに。

・カラマツ土台角は3ヵ月連続して横ばい。米マツ平角及び割物は3月の横ばいが、4月、5月はやや弱含み。

・北洋エゾマツタルキは3ヵ月連続して横ばい。北洋アカマツタルキはやや強含みで推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材・外材共に入荷順調。スギ材防音工事少なく、荷動き少ない。外材全般的に減少。在庫はスギ荷動き少なく増加。WW・米ツガ材の荷動き少なく在庫増加。アカマツタルキ少ない（関東）。
- ・全般的に入荷悪い。販売量は全体的に増加。構造材は変わらず。3月は在庫減少。2月の入荷を抑えたため、3月の予想外の販売量増に在庫が減少した（中部）。

(価格動向)

- ・スギ柱角（KD10.5cm、12.0cm）58,000円/m³、スギ桁角（東北グリーン材）40,000円/m³、母屋角（東北材）二等格30,000円/m³、スギタルキ（東北材）45,000円/m³、スギ間柱（KD）57,000円/m³、スギ加工板（東北グリーン材）東2,800円、（KD）東4,000円、スギヌキ（東北材）40,000円/m³、秋田材50,000円/m³、スギ平割（プレーナー）45,000円/m³、同（ラフ）40,000円/m³、ヒノキ柱角（KD）10.5cm角85,000円/m³、12.0cm角80,000円/m³、ヒノキ土台角10.5cm 80,000円/m³、12.0cm 80,000円/m³、米マツ平角 KD65,000円/m³、米マツ割物AD 65,000円/m³、北洋アカマツタルキ（アセンブル単価）（S）68,000円/m³、（P）58,000円/m³、（バンドル単価）（S）65,000円/m³、（P）55,000円/m³（関東）。
- ・スギ横ばい。ヒノキ品薄傾向も需要盛り上がりならず（中部）。
- ・柱角・桁角は外材からスギに変更していく。母屋角、タルキなどは販売量が増えてきたが、価格が上昇するほど在庫量が足りないことはないので、価格は現状維持。ヒノキ構造材の動きは低調。米マツは、入荷が悪いため販売も悪いが、価格は変わらず。北洋エゾ・アカマツタルキは、入荷が悪いため販売価格は現状維持（中部）。
- ・原木不足でヒノキKD4m 10.5cm角が値上がり気味。ロシア材は原木不足のため、輸入量が減少の影響で単価は上昇気味（（関西））。